

令和8年度 第1回 長浜市 部活動の地域展開推進協議会<議事録>

□ 日 時：令和8年7月1日(水)10:00～12:00

□ 出席委員：11名

中川順博（長浜市スポーツ協会代表）
川村宜純（長浜市スポーツ推進委員会代表）
八田忠士（長浜市スポーツ少年団代表）
橋本孝子（長浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会代表）
清水峯生（長浜市文化芸術協会代表）
高田清雄（長浜文化スポーツ振興事業団代表）
服部雅史（長浜文化スポーツ振興事業団代表）
丹治和裕（長浜市中学校体育連盟支部長）
吉田 誠（長浜市PTA連絡協議会代表）
元村 徹（長浜市市民協働部長）
宮川芳一（長浜市教育委員会事務局教育部長）

【事務局】

北村充生（長浜市教育委員会事務局次長）
細江秀樹（長浜市教育委員会事務局教育指導課長）
尾崎栄治（長浜市教育委員会事務局教育指導課担当課長）
加藤大幸（長浜市教育委員会事務局教育指導課健康教育係長）
小野祐二（長浜市教育委員会事務局教育指導課部活動改革推進室長）
前田光治（長浜市教育委員会事務局教育指導課部活動コーディネーター）
荒木哲也（長浜市教育委員会事務局教育指導課部活動コーディネーター）
中原善幸（長浜市市民協働部文化スポーツ課副参事）
水上のぞみ（長浜市市民協働部文化スポーツ課係長）

□ 欠席者：3名

11/14名出席・推進協議会設置要綱第6条第2項により会議成立

傍聴3名

議 事 録

1 開 会（担当課長）

2 あいさつ（教育部長）

令和7年12月に国からガイドラインが示された。

ガイドラインを基に地域展開を進めている。少子化が進む中でも子どもたち一人ひとりが多様な選択をして取り組むことができること。学校だけではなく地域の文化・スポーツ団体や保護者などとの関りがあって成すことができる。

中学校生徒向けアンケート結果や認定地域クラブ基準案について協議をお願いする。

3 委員委嘱

4 自己紹介

本年度第1回目会議のため、資料1に基づき自己紹介

5 趣旨説明（事務局）

資料2：長浜市部活動の地域展開推進協議会設置要綱について

- ・少子化の影響
- ・学校部活動だけでは子どもたちの求めるニーズに応えられない現状
- ・設置要綱説明

6 会長・副会長選出

- ・協議会設置要綱第5条第2項に基づき、委員の互選により選出された
会長：中川順博氏、副会長：磯崎真一氏
- ・会議の議長は会長が行うこととする。

○会長就任あいさつ（中川順博 会長）

- ・各団体からそれぞれの立場でより良い意見をいただき、部活動の地域展開に関する各種案に盛り込んでいきたい。
- ・議長の立場ではあるが、必要に応じて話をさせていただきたい。

7 議 事（中川会長進行）

（1）長浜市の部活動地域展開の取り組みについて

資料3に基づく事務局説明（部活動コーディネーター）

新しく委員になった方もいることから、これまでの取組経過も踏まえて説明。

- ① 部活動時間の短縮、地域展開を進めていく。
 - ② 地域展開の背景には少子化による部活動維持の困難、生徒のニーズに対応できない現状がある。
 - ③ 今後の生徒の活動場所を保障するため部活動の地域展開を進める。
 - ④ 地域クラブ・民間クラブにお願いし、部活動終了後の平日17時以降の活動を拡大しているところである。
- ・子どもたち（小6～中学生）には担任等、学校を通じて説明。保護者へも周知
 - ・部活動の時間短縮に伴う、今年度の様子を視察（4月～5月）し、活動内容等を確認
 - ・学校の取組：清掃無しの日、授業時間の短縮等、部活動強調週間の設定や朝練習（大会前）、練習メニューの意識改革等、活動時間外の活用
 - ・部活動の時間短縮に伴うアンケート結果
中学生回答 肯定的回答49% 否定的回答29% 変化なし7% 分からない13%
その他2%
「分からない」は、部活動を始めたばかりの新一年生や部活動に入っていない生徒の回答が大半であった。
 - ・保護者回答 肯定的回答28% 否定的回答39% 変化なし25% その他8%
 - ・今年度についても、3年生引退後の秋以降には単独での大会出場が困難な部活動が増加する。ごく一部の中学校のみ、現状設置する部活動がすべて成り立っている状況
 - ・中学生を対象とした活動希望種目アンケート
ダンス、プログラミング、軽音楽など、現在の部活動に設置されていない種目のニーズが高い

【質疑応答】

（委員）

夏場や冬場で日照時間も異なる、地域クラブの参加者の移動については現在どのように対応されているか。

（事務局）

16:45の部活動終了時点から移動を極力少なくして地域クラブの活動に移せることが理想。現状は部活動に引き続き学校施設を利用して、部活動から継続して活動されている

移動が不要な地域クラブもあるが、仕事の都合で早い時間には指導者がそろわない課題もある。夜間の活動となると安全面を考慮して、保護者送迎が現状である。

(委員)

学校現場の視点で、部活動の時間短縮について実施から3か月ほどの経過から感じられることについて、昨年度は17:30まで活動していたので、今年度は、1時間短縮となったが、子どもたちから「もっと活動したい」という意見を聞く。現状は放課後の地域クラブの活動においては「条件がそろい始めている」とみている。情報は子どもたち同士で学校の垣根を越えて共有しているので、条件がそろえば放課後の地域クラブ活動についても今後増えていくのではないかと考える。学校評価アンケートについても、活動時間短縮と大会で活躍したいとの思いの違いから保護者から部活動の時間が短いという声を聞くことはあるが、クレームほどではなく、何とかならないかという程度である。

(委員)

外部指導者が入っている活動で、平日部活動後にそのままクラブとして活動していることはあるか。

(事務局)

いくつかの部活動で、部活動終了後そのまま地域クラブに移行している事例がある。

(委員)

そのまま同じ種目を学校で地域クラブとして継続実施する場合は心配ないが、別の会場へ移動を要する場合、移動時の心配はないか。

(事務局)

生徒達が自転車で通える範囲にクラブができればよいと考えているが、あまりクラブの規模が細か過ぎると部活動と同じように活動自体が成り立たない懸念もある。活動規模を考えて現時点では旧伊香郡・旧東浅井郡というように各ブロックで設置することを考えているため、移動に関してはどうしても保護者送迎が欠かせない。

(委員)

秋以降、部活動が成り立たなくなることについて、合同部活動はどうなっているか。

(事務局)

試合では、合同チームでの参加が認められているため、試合に出場する人数を満たすために合同で大会出場している。しかし、普段の練習については時間的な問題で、集まった活動ができない現状である。

(委員)

年によって合同チームのメンバーが変わることもあると思うが、子どもたちの様子はどうか。

(委員)

毎年5月1日の調査によって単独出場できるかどうか分かるため、それ以降に合同チームを組む動きとなる。ある中学校では現在野球部1名で、この生徒が引退すれば0名となるため、部活動は停止し、顧問も充てないことになる。数名でも入部があれば、合同チームを組んででも大会出場できる。拠点校型の措置をとることで、部活動がある学校に出向いて活動することはできる。生徒数によって学級数と教員数が決まることに加え、部に複数の顧問を充てるとなると部活動数も減らさざるを得ないこととなる。これが長浜市の現状である。秋に実績がある合同チームは翌年夏まで合同チームを存続できる仕組みをとることもできる。

(委員)

以前の会議で、部活動を一旦なくし、改めて設置するとなると顧問を充てることが難しく設置できないと聞いた。部活動については廃部せず休部の形でおいておくことはできないか。

(事務局)

部活動の形にこだわらず、地域クラブとして、子どもたちが活動できる種目と場所を確保することを考えている。

(委員)

地域クラブへ行くとなったとき、スポ少であれば夜間の活動になる。教育委員会や学校は夜間に中学生が参加するという事に対し思いや考えはあるか。

(事務局)

指導者の都合により、必ずしも17時に開始できるとは考えておらず、夜間に活動しているスポ少や、大人だけのチームの練習に参加する形もあり、夜間の地域クラブに参加することについてもやむを得ないと考えている。

(委員)

陸上競技を指導しているが、水、土、日の活動をしており、中学生46名、うち5名は学校では吹奏楽部に所属している生徒で、目的は体を動かしたいということであった。子どもによって求めるものは多種多様であると考えられる。地域クラブはその受け皿になると考える。

(委員)

中学生向けアンケート中の中学生が参加したいと思う活動について、ダンスやバドミントン、プログラミングといった種目が上位になっているが、長浜市の学校部活動で設置しているところはあるのか。

(事務局)

他市町ではダンス部を設置しているところもあるが、本市ではない。プログラミングについても、かつてはパソコン部があったが活動は絵を描くといった単純なものから多岐にわたっていた。「プログラミング」についてもどのような内容を子ども達が求められているのか、さらなる調査が必要だと考えている。

(委員)

子どもたちの活動は2極化しており、「楽しみたい」か「勝ち上がりたい、極めたい」である。楽しみたいといいつつ、勝てないとつまらないとなり、活動が続かない。大会についても競技志向のクラブチームが参入し、クラブチームばかりが入賞し「楽しみたい」をメインに考えているクラブは勝てない。野球でいえば、スポ少が地域クラブを担うのが良いのではないか。やりたい活動場所や種目が地元になれば他市町へ、他市町にもなければ県外へという流れになっている。

(委員)

地域に子ども達の受け皿、指導人員等がまだまだ足りないのが現状。Jリーグのクラブチームが経営するチームのように指導者が多いと同じ種目でも子ども達のレベルに応じて受けたい活動・指導を選択できる制度もできる。

(委員)

時間短縮アンケートの子どもと保護者のものを比較すると、子どもの思いと保護者の思いが乖離しているなど感じる。保護者の立場としては、部活動が短くなった時間で、子どもたちのやりたいことがゲームやスマートフォンでは困るなど感じる。子ども達が多様な活動ができるよう地域クラブでカバーしてもらいたい。

(事務局)

子どもたちが活動したいことができるように地域全体で支えていかななくてはならない。学校で担っていた部分を地域に協力を仰ぐなかで、子ども達の活動の場を確保していきたいと考える。

(2) 長浜市の認定地域クラブについて(資料4)

資料3に基づく事務局説明(部活動改革推進室長)

国のガイドラインに示された認定地域クラブの基準をベースに、他市町の事例や長浜市の実情を踏まえ、長浜市独自の基準を加え、定めた。

【質疑応答】

(委員)

11月の学校説明会までに小6の保護者へ地域クラブの情報を提供できると、子ども達が中学校に上がった時の選択肢に入る。

(委員)

国の示した認定基準について、指導者資格の基準は示されているのか。

(事務局)

国は明確には出してはいないが、スポーツでいえば日本スポーツ協会が認定する、スポーツ指導者の基礎資格であるスポーツコーチングリーダー等の資格の有無は、認定に関する検討にいれておきたい。文化活動の指導資格については、スポーツに指導者資格のように系統だった適当な資格がなく、国や県に適当な情報があれば共有してほしいとお願いしている。

(委員)

スタートコーチは新規に講習を受けた人を対象にしている。これまで認定員として携わった方はスポーツコーチングリーダーとして、4年に1度の更新をするスポ少指導者資格になっている。

(委員)

スポ少指導者が認定員という立場から地域展開に向けてスタートコーチリーダーを経て格上げ措置をしたので、一定考慮しておく必要がある。

保険に関してはスポーツ安全保険については、学校のスポーツ振興センターの保険と補償内容の違いはなくなった。

指導者への謝金等について、教員の兼職兼業も含め指導者謝金が生じるかどうかもある基準の中に、明記するべきでは。

(事務局)

謝礼については、スポ少等をはじめ、指導者が謝礼をもらわない文化もあるが、地域クラブについては、受益者負担の考え方を基本としており、市からの補助や参加費収入をふまえ、継続的に指導者を確保していく観点からも、指導者謝礼の有無についても今後地域クラブで検討してもらいたいと思う。

(委員)

認定クラブになったときのメリットは何か。

(事務局)

市からの運営活動補助等を考えている。

(委員)

認定されるメリットやサポート面が前提に無いと、認定を求めるクラブは増えていかないのではないか。特に新しく立ち上げる際には、今の規定だと書類等の手間ばかりが先にきて、認定をもらおうとは、ならないのではないか。

(事務局)

地域クラブが認定のメリットを感じてもらえる様、運営補助といった予算措置を今後検討していく。

○次回はアンケート結果詳細分析を踏まえて、推進計画素案を協議。

以上